総社市立秦小学校　**学校だより**　令和５年度第２４号
９月１５日（金）

☆　新作・新刊を購入させていただきました。☆

150周年記念式典に合わせていただいたご寄付で新しい本を買わせていただきました。司書の小西先生が選定してくださった22冊の新刊コーナーは大人気状態になっています。教科書もそうなのですが、新しい本を広げる時の本のにおいが私は好きです。知らない世界に入り込める気がして〇〇図鑑の類（たぐい）は何度も何度も開いて読んでいました。でも、物語や冒険シリーズはあまり読まなかった（読めなかった）ので、学校の図書室でハリーポッターのような何百ページもある本を手にしている子を見ると尊敬してしまいます。きっと文字を読みながら、情景と心情を想像し、頭の中が映画館のようになっているんでしょうね。これは私の勝手な思い込みですが本を読みながらドキドキする感覚を味わえるのってすごいことだと思います。

とある兄弟がいました。3年生のお兄ちゃんが学校の宿題で音読をしています。今日は『モチモチの木』の音読です。夕飯ができるのを待ちながらリビングで読み始めました。部屋の反対側では3つ年下の弟がテレビを見ていました。ところが、幼稚園の弟は、お世辞にも上手とは言えない読み方で続ける兄のすぐそばに、いつのまにかやってきて、教科書を一緒に食い入るように見ています。二人はそのままずっと、音読がおわるまでその状態でいました。

『あーよかった。どきどきした。』弟の感想です。兄は、読むのに一生懸命で『何が？』って感じできょとんとしています・・・・。これ、実は、我が家の昔話ですが、実話です。この後、この弟は、自称ですが小学校の図書室の本は全部読んだと言っています。本が大好きな子になったのは事実のようです。心を揺さぶる仕掛けにどっぷりとはまり込むことができるのは特技であり、幸せなことだと思います。学校の図書室が、いつまでも子どもたちの大好きな場所であり続けることを願っています。

寄付への、すてきなお礼状を図書委員会の児童たちが書いてくれました。